

## 2013 年度第 1 回 GBIF 日本ノード運営委員会議事要旨

日 時： 2013 年 11 月 15 日（金） 13：00～15：00

場 所： コンベンションルーム AP 秋葉原 1 階 0+P 室

出席者： 伊藤、大久保、大澤、大原（副委員長）、小池、白木澤、高久（中山委員代理）、多田内、細矢、松浦（委員長）、山崎由の各委員

オブザーバ： 柴田 泰邦 環境省自然環境局 自然環境計画課 生物多様性国際企画官

美和 秀胤 環境省生物多様性センター

宇津木 望 東京大学大学院総合文化研究科・特任研究員

神保 宇嗣 国立科学博物館動物研究部陸上無脊椎動物研究グループ・研究員

福田 知子 国立科学博物館植物研究部・支援研究員

欠席者： 柴崎、城石、中山、藤倉、三橋、山崎剛、の各委員、石川オブザーバー

NBRP： 佐藤 清 NBRP 事務局長

平田 裕美 NBRP 事務局員

事務局： 熊野 有祐 国立科学博物館 研究推進管理課

### 1. 報告事項

#### 【1】平成 25 年度各機関の活動報告

##### 国立科学博物館

細矢委員から生物多様性情報に関する研究会の開催、標本情報の電子化・データベース構築、分類学人材データベースの充実、標本のメタデータベース作成、広報活動について報告があった。

##### <質疑>

JBIF ポータルに申し込みのあったデータは、その後どうなったか？

— 来年度以降、提供される予定。

標本のメタデータ・データベース作成と、S-Net などの標本情報検索サイト構築との関係は？

— 最終的には、すべてのメタデータ・データベースのデータが検索サイトに掲載されることが望ましい。

その他、自然史情報の定義、電子化の必要性、標本のメタデータの意味、標本の性質（学芸員の著作物ではなく、公的資料であり、公開すべきもの）、ダウンロードの基準などについて質問があった。

また、ライセンスについての記述がないので、もし転用可能なら、転用・転載が可能、ということを書いておかないと、結果的に転用されなくなる恐れがある、との指摘があった。

##### 東京大学

伊藤委員から、以下の項目について報告があった。

1. 自然史情報の国際標準の調査と普及、GB20(理事会)への参加

2. 情報の収集

甲虫・シダのデータ 処理が終わり次第掲載予定。

3. 植生調査 いきものログに公開後、GBIFにも公開。生物多様性センターと協力。
4. モニタリングサイト 1000のうち、環境省から公開されたものについて東大で変換を行って GBIF に公開。
5. 北大からのデータ。モニタリングサイト・GBIFに既公開分を除いて、重ならないものを出す。
6. 種名 DB 鱗翅類は GBIF に公開予定。ハエ目のデータは 9 割まで収集済み。

#### <質疑>

植生調査には緯度経度情報も含まれるか？→含まれる。

会議後メモ：東大の活動については後日、資料が提出された。

### 国立遺伝学研究所

山崎委員から、以下の報告があった。

#### 1. ポータルサイトの安定運用と利用促進

##### 1-1. サーバマシンおよびポータルサイトの運用

- ・大規模リニューアル：テキストを減らし、利用と登録にしぼって、赤枠の中だけで 9 割方ができるようにする。ページについての説明。
- ・デザイン改訂：トップページの画像も順に変えていく予定。
- ・英語版作成、JBIF パンフレットの情報を掲載、Web 上でのコンテンツ管理システム導入
- ・ページ改ざんに対する復旧作業。

##### 1-2. 国際 GBIF のニュースレター (GBits) の和訳および e-book の継続公開

#### 2. GBIF データ登録・公開および各種サービスの更新

##### 2-1. GBIF へのデータ登録 (京大爬虫類データ差し替え、農環研 植物観察情報 新規追加)

##### 2-2. フォーマット適合テストツール IPT2 版公開 (日本語・英語)

##### 2-3. IPT2 翻訳

### ワーキンググループの活動報告

細矢委員から、以下の項目について報告があった。

1. つくばにて会合 (2013 年 8 月 12 日) を開催した
2. ポータルサイト更新へ協力
3. 生物多様性情報に関する専門誌への投稿、GBIF (含日本ノードの活動)、種名情報の電子化・公開と関連事項の公表・出版を行った。
4. AP-BON (2013 年 9 月 12 日於九州大学)、GB20 (2013 年 10 月 8-10 日ベルリン) にて発表・会合  
アジア各参加者 (韓国・インド・台湾・ACB) と意見交換 (10/7)
5. インドネシアとのメンタリングプログラム終了 (2012 年月~2013 年 7 月) 国としてではなく、LIPi として GBIF に参加する意向
6. IPT 2 翻訳、GBIO 監訳、アジア地域絶滅危惧種・侵略的外来種リスト統合、各種データペーパー作成の現状

## 【2】GB20 報告

細矢委員から 10 月 9-11 日に行われた GBIF 理事会について説明があった。

- ・ GBIF の財政について。資金をコア業務とその他の業務用に分けて徴収。参加組織が公平に財政負担することを目指す。
- ・ GBIO(Global Biodiversity Informatics Outlook)について。生物多様性情報学の現状を概観するもの。
- ・ GBIF から、2012-2016 の戦略実現に向けた、次の 2 年間の作業プログラムの提案（情報インフラの整備、関係者の提携促進、コンテンツの充実）
- ・ 選挙の結果と、新体制（議長交代、伊藤委員は副議長）。
- ・ 次回会合（GB21）は来年 10 月、インド・ニューデリーで行う。  
（伊藤委員より補足） これまでは国としての参加が前提であったが、機関による参加が始まっている。中国は国でなく中国科学院（CAS）が参加。

### <質疑>

- ・ 集まったデータを使って何をしたか、という点が重要ではないか？  
- GB20 のサイエンスシンポジウムでは、GBIF データを使った例の紹介があった。
- ・ 誰が使うことを想定しているのか？  
- データのユーザー層は 3 層：科学者、政策決定者、市民。科学者は分布状況を解析、市民は自分の市にいる生物を調べる、など。この 3 者が相互に関係する場合もある。
- ・ 参加しなくてもデータが利用できるのなら、参加する理由がないのではないか？  
- 結果的には、参加しないと利益は享受できないし、事業として進んでいかない。  
- 参加したときのメリットとして、GBIF の予算（旅費・宿泊費）でメンタリングプログラムの利用・トレーニングコースの受講などが可能であることが挙げられる。
- ・ GBIF と他の機関との連携の話があったが、国内ノードと連携する機関はあるか？  
- JBIF としては、JBON（AP-BON の日本版）などと会合を持っている。
- ・ GBIO の日本語版をつくる予定はないのか？  
- とりあえず、英語版を訳して解説をつくることを考えている。  
- COP10 前の 5 月に環境省で生物多様性情報の基準が必要と認識された。JBON では、生物多様性情報の日本での基準をつくるという提案が出ている。

## 2. 審議事項

### 【1】平成 25 年度各機関の活動計画

#### 国立科学博物館

ワークショップ開催、標本情報の電子化・データベース構築、標本のメタデータベース作成、分類学人材データベースの充実、などを目標として挙げる。

#### 東京大学

活動報告した各事項について、引き続き作業を進める。

#### 国立遺伝学研究所

JBIF サイトの完全復旧と、GBIF サイトのリニューアルに対応したマニュアル作成。NBRP のリソースのデータの登録・公開、IPT2 の日本語版のテスト運用、など。

#### ワーキンググループ

活動報告で挙げた各項目を遂行。委員会により意義なく承認された。

### 3. その他

特になし。

最後に、松浦委員長より謝辞が述べられ、閉会した。

以 上